

「智恵なすわざ」が生きる社会を実現するために

鈴木 晶子 (京都大学)

1. 第二次コミュニケーション革命としての超スマート社会の課題抽出と対応策の検討

- ①第一次 (18 世紀) — 地縁・血縁生活圏から公共空間への移行にともなう人間関係の変化
 - ・人間交際の新たなルール・エチケット・倫理の学習が必要となる
 - ・相手の感情を読みとる能力、自己アピール、パフォーマンス、アイデンティティの発生
 - ・見えないもの、流れるものへの注目：流通、貨幣、感情、情念、欲望
 - ・職人ワザ・道具の時代から機械技術の時代へ：手わざなど身体知の退行
- ②第二次 (21 世紀) — フィジカル・サイバー空間での人間関係の変化
 - ・薄い付き合いのコミュニティでの新たなネチケット
 - ・匿名性、アイデンティティの増殖、感情操作、感情労働の問題
 - ・Web 上での負の感情の増殖を制御する、「いまここ」への意識集注の訓練の必要
 - ・触覚をはじめ感覚の繊細さ、身体知、暗黙知のさらなる退行

2. イノベーションとしての総合的な倫理を構築・検証・運営するための拠点の設立

- ①倫理そのものを社会創造、イノベーションとして捉える新たな総合倫理の確立
 - 技術倫理、情報倫理、企業倫理、生命倫理など個別の分野に対応した倫理から総合倫理へ
 - ・サイバー世界での情報操作、ゲームなど常習性や射幸性、感情操作への対処法の検討
 - ・ネットネイティブの世代にみる知情意、行動類型の変化に関わる基礎研究
 - ・ネチケット学習のためのプログラム開発
 - ・人工知能への道徳性の実装化
- ②500 年の間、変わらいままできた従来の教育形態の何を残し、何を变えるかという問題
 - ・教え/教わる場から、新たな学習プラットフォームへ — 教育の時空間の大幅な組換え
 - ・問題解決学習から問題発見・問題設定の学習へ — 才能・学力・資質の再検証
 - ・知情意の発達・熟達モデルの転換に伴うライフ・ワークバランスの検討

3. 「モノにいのちあり」：新たな人間観に基づく未来の社会像を日本から発信する

- ①技術の進歩とともに人間の能力はこれまでも変化してきた。人工知能の進展と呼応して人間の能力がどう変化するか、利便性と引き換えに失うべきでない人間の資質は何かを見極める。
- ②社会技術ネットワークの一翼を担う人工知能と人間との共進化のプロセスをデザインする。
- ③モノ供養の文化をもつ日本から、モノとの共生モデルを世界に提示していく。
- ④人工知能研究を通して、人間の学習・熟達のメカニズム、とりわけ状況認識能力、身体知、暗黙知、経験知、パフォーマンスなど人間行動に関わる研究を躍進させ、求められる究極の人間性を解明し、未来社会の指針を提示する。